



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎  
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)  
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## ご退職に寄せて

昭和大学歯科病院 副病院長 馬場 一美

今年は冬季オリンピックイヤーで、熱い冬を過ごした方も多かったことと思います。そんなオリンピックの興奮の余韻の中、日に日にあたたかくなり、春の訪れを感じる時期になりました。

桜の開花とともに退職・卒業される方々を見届け、入職・入学される方々を迎え入れる行事は、日本の風物詩の一つと言えますが、4月が入学シーズンである国は実はかなりの少数派で、世界の多くの国々では9月の入学が主流です。我が国でも、例えば東京大学では秋季入学を推進しており、グローバルスタンダードに日本の制度を合わせることは必然なのでしょうが、卒業式や入学式に桜がないのは寂しいと感じられる方も少なくないのではないのでしょうか。

さて、今年も昭和大学歯科病院では3月末をもって、5名の教職員の方々がご勇退されますので、ここでご紹介させていただきます。

口腔病態診断科学講座歯科放射線医学部門の境野利江先生は昭和57年に当時の歯学部歯科放射線学教室に着任され、歯科病院におけるX線検査の被曝の低減に貢献されてきました。ご勇退後は昭和大学病院薬剤部で勤務される予定です。

歯科技工室の上村秀昭さんは昭和56年から歯科技工士として歯科病院の歯科技工業務に貢献されてきました。入職当時はまだ1回生が5年生で、本学歯学部の卒業生は無く、歯科病院創立当初の大変な時期をご存じの方です。ご勇退後は、昭和大学病院の看護部で勤務される予定です。

看護部の松岡志のぶさんは昭和62年に昭和大

学藤が丘病院に入職され、平成23年より歯科病院に着任されました。口腔外科外来に1年間従事された後、現在まで病棟の入院患者さんの看護に従事されてきました。明るく楽しい人柄は病棟の雰囲気づくりに大きく貢献してきました。ご勇退後も引き続き歯科病院病棟に在籍されます。



栄養室の岡田知也さんは昭和54年に昭和大学病院に入職され、その後昭和大学藤が丘リハビリテーション病院、昭和大学横浜市北部病院等に赴任されたのち、平成25年に管理栄養士として歯科病院に着任されました。入職当初は、昭和大学病院の入院棟が落成したばかりの年だったとのこと。ご勇退後は、昭和大学病院の薬局で勤務される予定です。

事務課の能崎雅代さんは昭和53年に昭和大学病院に入職され、平成21年に歯科病院に着任されました。入職以来一貫して病院管理業務に従事し、歯科病院教職員誰もが少なからずお世話頂いたと思います。ご勇退後は、昭和大学病院附属東病院で今までと同様、病院管理業務に従事されるとのこと。

長年、職を共にした方々が職場を去られるのはとても寂しいことですが、退職される方々が作り上げてきた職場をより良いものに育て、次世代の教職員に引き継ぐことが、残された私たちの責務です。ご勇退される方々の新しい人生が、ますます豊かで楽しいものとなりますよう心よりお祈りいたします。

## 健康保険適用となった第一大臼歯のCAD/CAM冠

補綴歯科 講師 田中 晋平、科長 馬場 一美、技工室責任者 鍛冶田 忠彦

金属製の被せ物(「冠」といいます)は、笑うときや話すときに目立ってしまうばかりでなく、金属アレルギーの原因になることもあります。そのような金属製の冠に抵抗がある患者さんも少なくないのではないのでしょうか。

金属製の冠は、耐久性に優れ、正確な寸法で製作できることから、長年いろいろな歯科治療に使用されてきました。一方で、金属製の冠は、製作方法が複雑な上に、見た目が悪く、金属アレルギーの患者さんには使えない、などの欠点がありました。

最近、歯科医療技術が広範囲にデジタル化され、冠をコンピューターで製作するCAD/CAMという技術が製作手法の主流となりつつあります。それによって、材質は優れているにもかかわらず、加工方法が難しかった材料が、冠の材料として使えるようになってきました。一方で、これらの技術・材料は、主に高額な自費診療に限って応用されてきたため、全ての患者さんが新しい技術の利点を楽しむことはできず、金属を用いない冠を選択したかったものの、健康保険適用ではないためにあきらめてしまう方も多かったのではないのでしょうか。

しかし、2014年4月1日に小臼歯に限って、冠をCAD/CAMで製作する樹脂(コンポジットレジン)製の「CAD/CAM冠」が健康保険適用となり、すでにそのメリットを感じた患者さんも多くいらっしゃると思います。

さらには、2017年12月1日に下の奥歯(下顎第一大臼歯のみ)に「CAD/CAM冠」の健康保険適用範囲が拡大されました。それに伴い、今までは金属アレルギーのある患者さんのみ健康保険適用であった大臼歯へのCAD/CAM冠が、保険診療で行うことができるようになりました(写真1、2、3)。

ただし、大臼歯へのCAD/CAM冠を保険診療で行うには、「上下顎両側の第二大臼歯が全て残っ

ていて、左右の咬み合わせが失われておらず、過度に大きな力が加わらない場合に下顎第一大臼歯に使用できる」という条件が義務付けられておりますので、ご自身が適応症例かどうかについては、担当医にご相談ください。

このように、以前と比較すると冠の材料の選択肢は大きく広がりました。しかし、これらの技術革新の目的はあくまでも、私たちが掲げる理念、“患者本位の医療”を実践するためのものです。その上で、できるだけ多くの患者さんに日々進歩する先進的な治療の恩恵を享受して頂きたいと強く思っております。



写真1 治療前の金属冠。金属色の光沢が目立ち、見た目は悪い。



写真2 製作されたCAD/CAM冠。



写真3 CAD/CAM冠を装着した写真。歯の色に近く、見た目が良好である。

## 退職にあたって

### 歯科放射線科 助教 境野 利江

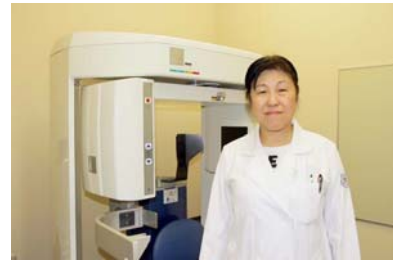


エックス線撮影は内蔵疾患など血液検査等では、わからない歯や骨の治療を行う歯科の治療には欠かせない検査です。しかし放射線被曝によるリスクがあることも事実です。

歯科でよく行われる口内法撮影やパノラマ撮影では実効線量で1枚0.01 mSv、CT検査では1回2.0 mSvになります。ただし人間は通常生活しているだけで1年間に平均して2.4 mSvの放射線を浴びているので不必要に恐れることはありません。それでも不要な被曝は避けるべきであり、そのためできるだけ少ない線量で最大の診断ができるような撮影を歯科放射線科のスタッフは常に心がけています。

その一環として検査における放射線の量を測定するという事は欠かせません。在職中は線量測定や被曝低減のための研究や教育を行ってきました。

私は退職してしまいましたが、残った歯科放射線科のスタッフにより今後も患者被曝低減のための努力が行われて行くことを願っております。歯科放射線科および歯科病院の方々には大変お世話になりました。歯科病院のますますのご発展をお祈りしております。



コンビームCTの前で

## 定年退職に成りました！

### 歯科技工室 上村 秀昭



昭和56年に昭和大学歯科病院に入職致しました。当時は、歯科病院に歯学部1回生(5年生)が在籍し講義や実習などを行っていました。

歯科技工室には私を入れて当時23名で、毎日遅くまで仕事に追われ数多くの先生方や歯科技工室の先輩からご指導を頂きまして本当に有難うございました。

現在の歯科技工室の人数は14名に成りましたが、歯科技工室の仕事内容が色々変わり、沢山のデジタル機器が導入され、技術や知識など様々なことを学びました。

2020年の東京オリンピックに向けて昭和大学歯科病院スポーツ歯科では、昭和大学スポーツ運

動科学研究所と協力して医療分野で貢献活動に努めていると思います。

昭和大学歯科病院での発展を心寄りお祈り申し上げます。長い間大変お世話に成りました有難うございました。



技工物の受付



ナイトガードの製作の様子

## 定年退職のご挨拶

看護部 松岡 志のぶ

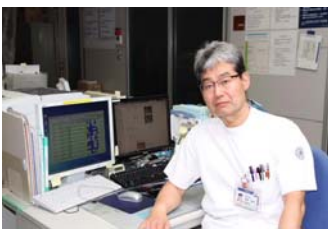


平成23年より歯科病院に配属となりました。病棟勤務が主でしたが、口腔外科外来、内科クリニック、手術室など経験している学ばことも多

く、皆様方のご指導に深く感謝しております。周囲の皆様に助けられ今日までこられました。尚、4月以降も引き続きお世話になります。定年退職にあたり昭和大学歯科病院の更なるご発展を祈念致します。今後ともよろしくお願い致します。

## 定年退職のご挨拶

栄養室 岡田 知也



39年間続いた栄養士生活に、終止符が打たれようとしています。その間には実に様々な事がありました。しかし、その一つ一つは、かけがえのない思い出です。今も心に残るのは、決めあぐねていた時、ある栄養士が口にした、「栄養科の長なんだから早く決めて下さい！！」の一言です。結局8つある病院のうち、5つの病院を責任者として経験しました。辛い事、嫌

な事は沢山ありましたが、同時に良い思い出も沢山できました。

よく、昔は良かったと口にしますが、記憶の曖昧さが嫌な部分を包むからなのでしょう。今が、まさにその大成の時であり、感極まっています。

39年間、職種の仕事だけでは無く、人として色々なことを教えて貰いました。本当にありがとうございました。これからも、この経験を糧として、頑張っていこうと思います。最後に昭和大学歯科病院の更なる発展を祈念致します。

## 定年を迎えてのご挨拶

事務課 能崎 雅代



昭和53年に昭和大学に入職し、病院での管理業務に携わり、歯科病院では、8年9カ月勤務させて頂き、定年退職を迎えることとなりました。

歯科病院の良さは、職種間の隔たり無く垣根を

超えて、一丸となって病院の向上に邁進していると感じ、少しでもその一因となれた事は私の中で、大きな財産となったことを大変感謝しております。職員の皆様には、本当にお世話になりました。歯科病院のさらなる発展と、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 編集後記

寒い冬も終わり、暖かな陽気が続くようになってきました。早いもので今年度も残すところ数日となってしまいました。4月からは新しい職場や学校など、新生活が始まる方も多いのではないのでしょうか。ただ、花粉症デビューはしたくないものですね。皆様にとって新生活が良いスタートになることをお祈りしております。

(M.N)

### 昭和大学歯科病院からのお知らせ

● 平成30年1月より、診療時間が変更となりました。

診療時間 8:30~17:00 (月曜日~土曜日)  
初診受付 8:30~11:30、13:00~15:00

※診療科により時間が異なります、詳細はお問い合わせください。

昭和大学歯科病院 地域歯科医療連携室 電話 03-5498-1954(直通)